

令和5年度第2回愛知県教科用図書選定審議会 会議録

令和5年5月25日(木)

午後1時30分開始～午後4時20分終了

愛知県生涯学習推進センター 研修室A

1 出席委員職氏名

1号委員	井本 仁	尾出 知子	松山 清美	柴山めぐみ
	有村 武志	西牧 美紀	米倉 里奈	
2号委員	吉川 孝子	浅井 優	林 智子	齋藤 慎吾
	小島 治彦			
3号委員	麓 洋介	黒川 雅幸	鈴木 薫	濱出 研介
	吉田 佳世	田添 千裕		

2 欠席委員職氏名

2号委員 野木森 広 石川 良一

3 出席職員職氏名

愛知県教育委員会	教育部長	栗木 晴久
	義務教育課長	水谷 政名
	特別支援教育課長	安楽 孝幸
	特別支援教育課担当課長	加藤 哲士
	義務教育課課長補佐	野田 恵美
	特別支援教育課課長補佐	尾野 仁美
	義務教育課主査	小川 康夫
	義務教育課主査	吉川 直希
	義務教育課主席指導主事	野杵 章子
	義務教育課主席指導主事	松山 貴久
	義務教育課主席指導主事	後藤 義広
	義務教育課主席指導主事	小笠原 真
	義務教育課主任指導主事	岡田 幸博
	義務教育課指導主事	三村 将行
	義務教育課指導主事	加藤 牧枝
	特別支援教育課指導主事	櫻井 聖子

4 欠席職員職氏名

愛知県教育委員会	義務教育課担当課長	星原 秀晴
	義務教育課課長補佐	塩野谷文雄
	特別支援教育課主査	山田 憲司
	義務教育課指導主事	杉山 雄一

5 会議に付した事項

- (1) 令和6年度使用小学校用教科書「選定資料」(案)について
- (2) 令和6年度使用一般図書選定資料(案)について

6 議事の経過

- (1) 報告事項

ア 愛知県令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択基準について (事務局)

お手元の要項資料5ページの資料4をお開きください。令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準でございます。この採択基準につきましては、第1回の書面会議において、皆様に御審議いただいた後、去る5月12日に行われました県教育委員会会議において承認されました。その後、直ちに市町村教育委員会等に通知しましたので御報告申し上げます。

- (2) 協議

ア 令和6年度使用小学校用教科書「選定資料」(案)について (会長)

次に協議事項に入ります。最初に事務局から選定資料作成の経過について説明をお願いします。
(事務局)

小学校用教科書「選定資料」(案)作成の経過について御説明いたします。お手元の令和6年度使用小学校用教科書選定資料を御覧ください。この選定資料は、去る5月8日、9日、調査員94名、義務教育課指導主事8名、合計102名の方に集まっていただき、選定資料を作成いたしました。

令和6年度使用できる小学校用教科書については、お手元の小学校用教科書目録に登載されておりますように、16発行者、259点であります。今回の選定資料作成にあたっては、新学習指導要領、愛知の教育ビジョンをはじめとし、現状に即した適切な内容になっているかという視点を踏まえながら、選定資料の1ページに掲げました各教科(種目)の観点・着眼点にしたがって、調査研究を行いました。

また、教科書目録に登載された教科書の見本と照らし合わせながら、教科書発行会社から発行されております教科書編修趣意書も参考にし、選定資料を作成いたしました。のちほど、選定資料の内容について具体的に説明させていただいた上で、検討部会において御審議いただきます。

イ 令和6年度使用一般図書選定資料(案)について (事務局)

続いて、『令和6年度使用一般図書選定資料(案)』作成の経過について説明いたします。4月27日、28日に「一般図書選定資料」の案を作成するための調査研究会を、愛知県総合教育センターを会場として行いました。

「愛知県教科用図書選定審議会規則」に基づく調査員は、特別支援学校教諭、名古屋市教育委員会指導室指導主事、県総合教育センター研究指導主事及び愛知県教育委員会特別支援教育課指導主事からなる計39人です。

お手元の資料の「令和6年度用愛知県教科用図書（一般図書）選定について」をご覧ください。1は、特別支援学校の児童生徒が使用する教科用図書について、障害の程度に応じて採択を決定する順を示しております。そのうち、①につきましては、小・中学校用教科書に準じたものを使用するため、義務教育課を中心に審議がされます。②につきましては、文部科学省が著作の名義を有する特別支援学校用の教科書となります。③につきましては、今回、みなさまに審議をお願いするもので、学校教育法附則第9条に「第34条第1項に規定する教科用図書以外の教科用図書を使用することができる。」と規定されている「一般図書」で、具体的には「絵本」であります。

令和6年度用一般図書は、「令和5年度使用一般図書選定資料」と、各校から「一般図書選定資料」に追加してほしい一般図書を募り、追加希望のあった本を基に調査研究し、選定を行いました。これらを表にまとめたものが、参考部分の表となります。のちほど、選定資料の内容について具体的に説明させていただいた上で、検討部会においてご審議いただきます。

(会長)

御質問はありますか。

(全委員)

なし。

(会長)

それでは、この後の選定資料の検討方法ですが、事務局により進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

特に御異議がないようですので、事務局の提案をお願いします。

(事務局)

この後ですが、まず、委員の皆様には教科書や一般図書を手にとって見ていただく時間を20分程とりたいと思います。

その後、小学校教科書と一般図書の選定資料について、6つのグループに分かれて協議を行います。

要項8ページの資料6『選定資料』検討部会編成(案)の表にございますように、6つの検討部会に分かれて、調査員が作成した選定資料が適切かつ公平かについて検討いただきます。検討の時間は80分間としますので、基本的には、前半の教科について40分審議をいただき、5分休憩ののち、後半40分のご審議をお願いします。

しかし、割り振られた教科によっては、発行者や点数に違いがあり、同じように40分ずつといかないグループもあるかと思えます。その辺りは、各グループで臨機応変にご対応いただいで構いません。

部会終了後、午後3時45分から全体会にて各部会の協議内容を御報告いただき、選定資料の協議を行います。以上の方法を提案いたします。

(会長)

御質問はありますでしょうか。

(全委員)

なし。

(会長)

ただいま御提案いただいた方法でよろしいでしょうか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

では、はじめに教科書や一般図書を見る時間を20分程とりたいと思います。後方に小学校の教科書と一般図書を置かせていただいておりますので、自由に御覧ください。

—閲覧後—

(会長)

一旦、元の席に着いてください。6つのグループに分かれる前に、事務局から選定資料の内容に関する説明をしていただきます。

(事務局)

選定資料(案)作成の経緯につきましては先ほど説明させていただきましたので、私からは選定資料の内容につきまして、説明させていただきます。

では、お手元の、令和6年度使用小学校用教科書、選定資料「国語編」をご覧ください。国語を例に説明をします。

1・2ページ目に「教科書選定の基本的な考え方」、3ページ目に「教科書選定の観点・着眼点(国語)」が記載されていますが、これらは、第1回の審議会でお示したものと変更はありません。これを基に調査研究員が選定資料を作成しております。

この観点・着眼点から調査研究を行い、まとめたものが4ページからの内容となります。なお、1つの着眼点について原則として1つの記述となっておりますが、教科の特性から、教科によって、複数の記述になっている場合がございます。ご覧いただいている国語では、4ページの学習指導要領との関連、5ページの「あいちの教育の基本理念」との関連は、複数の記述になっています。最終の12ページには、教科書目録に合わせて、教科書発行者・書名一覧を掲載してあります。

以上、説明申し上げましたように選定資料を作成いたしました。この後のグループでの検討部会で、ご審議いただきます。この後の検討部会では、各部会で教育委員会の指導主事から、教科書の特長等を説明いたします。御質問がある場合は、その場でお尋ねください。以上です。

続いて、一般図書選定資料(案)の構成と見方等についてご説明いたします。

1ページをご覧ください。資料の中ほどの「(参考)」の表は、特別支援学校知的障害者用の文

部科学省著作教科書の一覧です。このように、国語、算数・数学、音楽の3教科があり、☆1から☆5までの段階ごとに作成されています。また、視覚障害者用、聴覚障害者用の文部科学省の著作教科書があります。

2ページをご覧ください。この表は、選んだ一般図書の段階と選定した図書の数を教科ごとに示してあります。1～3段階は小学部用、4～5段階は中学部用、表にはありませんが6～7段階は高等部用となります。また、備考欄には、調査した結果、不選定とした図書の点数を示してあります。例えば、国語では24点を調査し、選定が22点、不選定が2点であることを表しています。すべての教科の点数を合計すると、選定とした図書が105点、不選定とした図書が18点となります。3ページから15ページまでが、選定した一般図書105点の一覧です。

3ページ以降の資料の構成としましては、発行者、図書名、教科、段階、指導できる内容、特徴等について記載されています。

本日は、選定図書、不選定図書のそれぞれ10数点ほど持参しました。本来であればすべての選定図書を見ていただきたいのですが、時間の都合上これらの図書が適切に選ばれているかどうかを検討していただくことで、「令和6年度使用一般図書選定資料（案）」が妥当であるかどうかを判断していただきたいと思います。

（会長）

それでは、グループ検討に移ります。担当指導主事の方も入っていただいて、御検討をお願いいたします。各部会80分、前半40分、後半40分を目途をお願いいたします。それでは、グループ検討を始めてください。

【検討部会（グループ検討）】

【第1グループ】

<国語>

（事務局）

説明した点について御意見をいただきたい。

（委員）

選定資料全体が、子供たちが主体的に学ぶことができるかという観点で構成されている。教科書の目次や単元の前後のところにも、各者のそれぞれの工夫があることが説明からよく理解できた。選定資料にも各者の特長が意識して記述されていた。説明していただいた内容が選定資料の文言からよく読み取れるので、原案通りで問題ないと考える。

（委員）

選定資料については、観点ごとに各者の特長がしっかりとまとめられたものになっている。各者の教科書を比べながら見るのははじめてだったが、各者それぞれの特長や違いがあることが説明からよく分かった。「3（1）内容の選択」観点の着眼点ウには、「単元末の『ふり返る』では、身に付けた『言葉の力』を、他教科等の学習や実生活で活用する場面例を提示す

る工夫がされている」と示されているが、「他教科等の学習で活用する場面例」について、どの部分に表れているか聞きたい。

(事務局)

5年生160ページを確認願いたい。「生かそう」という見出しがあるが、ここに「社会科や総合的な学習の時間で資料を調べるとき、複数の資料を重ね合わせながら読む」ことについての記述があり、他教科との関連が示されている。

(委員)

観点2「あいちの教育の基本理念」の着眼点アの部分に書かれている、「グローバル社会における課題を考える教材」という言葉や、「世界的視野で学ぶ人材の育成」という言葉が、スケールの大きい壮大な視点であると感じた。それらは、教科書の中でどのように扱われているか教えてほしい。

(委員)

関連して、「グローバル社会における課題を考える教材」というものは、具体的にどのようなものが扱われているのか聞きたい。

(事務局)

5年生152ページを確認願いたい。ここでは、「プラスチックごみの問題について考えよう」と題し、世界全体の大きな課題である環境問題に関するテーマを扱っている。「あいちの教育ビジョン2025」では、「自ら高めること」と「社会の担い手になること」が「基本理念」で示されている。ここでの学習を通して、将来的に環境問題を解決していこうとする気持ちや意欲が生まれ、言葉の力をつけながら「世界的視野で学ぶ人材の育成」につながる構成となっている。

(委員)

そういった面では、各者ともに、環境問題や国際理解、情報活用等に関する内容を教材として取り上げている。これらの教材をもとに学習を進めていくことで、言葉の力を高めながら、「めざす子どもの姿」や「めざす愛知の教育」に近づいていくという理解でよいか。

(事務局)

その理解でよい。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「国語」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

<書写>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

入門期である低学年における基礎基本の定着に対して、各者にどのような工夫が見られるか。

(事務局)

例として、1年生2・3ページを確認願いたい。ここでは、イラスト図や擬音語を効果的に使い、視覚的に内容が理解できるよう工夫されている。また、4・5ページには、左利き児童への配慮などもされている。手本の横には二次元コードも示され、文字の書き方について動画で理解できるように配慮されている。

続いて、1年生4・5ページを確認願いたい。ここには、イラスト図や擬音語を効果的に使い、姿勢や消しゴムの使い方などが、分かりやすくまとめられている。鉛筆の持ち方についても「合言葉」を使い、繰り返し練習できるよう工夫されている。

続いて、1年生6・7ページを確認願いたい。ここには、イラストや写真を効果的に使い、書くという動作の基礎基本が、分かりやすくまとめられている。また、「タブレットを使う姿勢」についても示されている。二次元コードもついており、動画でも確認できるよう工夫されている。

(委員)

各者とも、入門期、特に低学年の子供たちにとって、興味をもって文字に親しめるような工夫がなされており、その部分について、選定資料にも分かりやすく表記されていた。状況や場面に応じた筆記具の選択など、生活の中に生かしていくような発展的な学習などについても、各者、様々な工夫がされていることが分かった。その点についても、選定資料の中で各者の特長をとらえた表記がなされており、中立で公正なものとなっている。

(委員)

三者とも工夫した丁寧な編集がなされている。そのことが選定資料の中にも分かりやすく示され、特長をとらえた表記で書き表されている。

(委員)

「3(3)内容の構成」観点の着眼点ア、「内容の系統性」の部分で、各者の特長・長所が選定資料にそれぞれ分かりやすく表記されている。どの学年で、どのような教材を使って、どのような力を子供たちに身に付けさせていくのか。各者の特長・長所について、選定資料からそれぞれ読み取れる内容となっている。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「書写」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

【第2グループ】

<社会>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

それぞれの教科書の特長が選定資料の中に記載されており、選定にあたって参考になる選定資料になっている。

(委員)

「5 印刷・造本等」のイに、カラーユニバーサルデザインとカラーバリアフリーという言葉がある。違いはあるか。

(事務局)

カラーバリアフリーは一般名称で、カラーユニバーサルデザインは認証制度がある。

(委員)

「3 (3) 内容の構成」について、授業者として選定資料を見たときに、3者の内容構成の特長を一言で表現した文言になっているので、非常に分かりやすい。

(委員)

児童が一人一台端末を持っている中、二次元コードについても選定資料に記載されているのは、選定にあたりとてもよい。

(委員)

どの教科書も子供たちが対話をしながら授業を進められるつくりになっており、授業の流れが見えるのがよい。選定資料にもそのことが記載されている。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「社会」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

<地図>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

「5 印刷・造本等」で「2 東書」に「UD書体」と書かれているが、「社会」では「ユニバーサルデザインフォント」と書かれていた。同じ意味であるなら、表記を揃えるとよい。

(委員)

地図学習は児童の習熟度に差が出る。一つの地名を見つけるのにすごく時間がかかる子供もいれば、早い子供もいる。両者ともに、フォントが工夫されていて、視認性が非常によい。地図を使った学習では、活動に時間差が生まれやすいので、二次元コードを使ってさらに学習を深めることができるような内容になっている。これらのことが選定資料でもきちんと触れられている。

(委員)

地図を3年生から4年間使うことについて、「3（2）内容の程度」で、写真やイラストを掲載して親しみやすくしていることについて書かれていたり、「5 印刷・造本等」で製本について書かれていたりして、選定資料として適切である。

（委員）

歴史の学習でも使えるように、歴史に関する地図が両者とも掲載されている。それぞれの長について、こちらの教科書では、日本と世界の関りの歴史が地図で表されており、こちらの教科書には奈良市の地図の後に、歴史に関する地図が載っている。それらの長が選定資料にも記載されている。

（委員）

地図と歴史学習を関連させていくことは、中学、高校、大学の学習でも大切なことであり、小学校においても発展的な内容として価値がある。このことについて、「1 学習指導要領との関連」に両者の長が簡潔に書かれている。

（事務局）

「地図」の選定資料については、表記の統一についてのご意見をいただいた。表記を確認し、整理した上で、原案通りということで報告してよろしいか。

（全委員）

意義なし。

【第3グループ】

<算数>

（事務局）

説明した点について御意見をいただきたい。

（委員）

練習問題の記載の仕方に工夫がある。問題に色を付けて、これだけは取り組むとよいという問題を示したり、チャレンジ問題を示したりしている。個人差に対応する工夫がされている。各発行者の長が出ており、その長が選定資料にもしっかりと示されている。

（委員）

プログラミング学習や環境教育がどの教科書にも丁寧に取り上げられていて、興味をもって取り組める内容になっている。

（委員）

どの教科書も、問題が日常生活と関連付けられており、算数を学ぶことが生活の役に立つということが子供たちに伝わる構成になっている。

（委員）

各教科書の内容が、3（1）エにあるとおり、実生活・実社会と関連付けられており、その長が選定資料にも示されている。

（委員）

実生活との関連については、あいちの教育ビジョン2025の「生きる力」にも関連する内容であり、選定資料の2アにも、その特長が示されている。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「算数」は、原案どおりということで報告してよろしいか。

(全委員)

異議なし。

<理科>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

どの教科書も学習の過程がしっかりと示されている。その特長については、選定資料の3(3)に適切に示されている。

(委員)

理科は実験を行う上で安全面の指導が欠かせない。選定資料の4イに示されているように、どの教科書においても、わかりやすく記載してあった。

(委員)

実験の方法の手順についても、どの教科書も工夫して記載している。

(委員)

どの教科書も理科の見方・考え方がわかりやすく示されており、その特長は選定資料3イに適切に示されている。

(委員)

どの教科書もSDGs等、理科での学びと生活をつなぐ内容が記載されており、その特長は選定資料3(1)エに適切に示されている。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「理科」は、原案どおりということで報告してよろしいか。

(全委員)

異議なし。

【第4グループ】

<道徳>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

実在する人物や、現在活躍している人物を題材にしているところがよい。各者はそれぞれの人物をどのくらいの割合で入れているのか。なるべく多く取り入れたほうが、子供にとっ

ては身近な題材となり、興味をもって考えることができる。

(事務局)

各者が、どのような割合で実在する人物などを取り上げているのかについては、正確な数字は出していないが、どの教科書も、子供が興味をもつ人物を取り上げて教材としている。

(委員)

見やすさについては、各者によってフォントの種類や大きさが違うが、どこもユニバーサルデザインを意識している。人によって見やすさは変わるし、好みにもよるのでどこが優れているかを判断することは難しいが、工夫があることはよくわかった。

(委員)

いじめ問題については、各者どのように扱っているか。

(事務局)

どの発行者も大きく扱っている。例えば、目次で見ると、こちらの教科書はいじめについて二つの教材を取り上げている。こちらの教科書では「いじめをなくす」というユニットが示されている。そしてこちらでは「いじめを許さない心」として、二つの教材とコラムを取り上げている。

(委員)

道徳の教科書は、現代の問題をたくさん扱っており、子供にとって身近な問題として考えやすい。各教科書で授業の方法もいろいろ示されている。他の教科にも広がっていく学び方が盛り込まれている。

(委員)

「ドラえもん」が教材として取り上げられている教科書もあったが、低学年については、各者どのような工夫をしているか。

(事務局)

内容の理解に時間がかかりすぎないように、また、読解力による差があまりできないようにするため、絵や写真を活用している。発達段階に応じた工夫がされている。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「道徳」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

<音楽>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

観点4と5でのそれぞれの特長はどうか。

(事務局)

観点4のアについて、こちらの教科書では「にっぽんの歌みんなの歌」に特長が出ている。わかりやすいイラストや迫力ある写真が掲載されている。例えば、イでは、6年生8ページに簡条書きで歌い方のコツがまとめられている。

こちらの教科書では、3年生の52ページや4年生の45・45ページに、楽器の構造や演奏の仕方が、見開きの迫力ある写真で掲載されている。

(委員)

二次元コードなどは、音なども大切にしていると思うが、どのような内容か。

(事務局)

二次元コードのコンテンツの内容については、調査・研究の対象となっていない。

(委員)

例えばどのようなコンテンツがあるのか。

(事務局)

例えば、リコーダーの指の使い方を動画で見ることができる。19ページにある作品の場合は、この楽譜を演奏したものが動画として流れる。

(委員)

3(3)のウに関しては、コミュニケーション活動や言語活動が大切だと思うが、どのような特長がみられるか。

(事務局)

こちらの教科書では、5年生39ページの方位磁針のアイコンで示されている部分に、音楽的な言語活動を促す内容が示されている。こちらの教科書では、5年生15ページのキャラクターの吹き出しに、言語活動の充実につながる発問が記載されている。

(委員)

伝統芸能が大切にされている印象を受けたが、その点はいかがか。

(委員)

二次元コードが各ページにあり、伝統芸能の特長が示されている。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「音楽」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

<保健>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

説明のあったところが、特長的なところと判断して問題ないと考える。

(委員)

どの教科書も生活とのつながりを大切にしている。それを写真で見せるのか、絵で見せるのか、ゲームとして導入するのかは異なるが、それぞれの発行者によって工夫されている。

(委員)

感染予防について、コロナウイルスは教科書の中にどのように扱われているか。

(事務局)

5・6年生については、新聞記事の内容や、具体的な感染予防の方法などが、どの教科書にも記載されている。3・4年生の教科書では、手洗い・うがいの仕方を中心に扱っている。

(委員)

心の健康にも注目が集まっているが、心のケアについてはどのように扱われているか。

(事務局)

例えば、学校生活の中で困っている状況を図示し、こういう時は誰に相談できるかを考えさせるなど、実際の生活場面を想起するように工夫している。身の回りの生活から考える保健となっている。

(委員)

これらの教科書では、虐待までは踏み込んでいないが、今後はそこに踏み込むのではないかと感じた。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「保健」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

【第5グループ】

<生活>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

1・2年生で使う教科書であるが、上巻と下巻を分けて使っているのか。

(事務局)

上巻を1年生で、下巻を2年生で使うことが多いが、地域や活動内容、学習状況に応じて使い方を換えられるように、上下という分け方をしている。

(委員)

選定資料の観点1に、「児童自ら課題を設定できる」「自己決定」「自己肯定感」とあるが、教科書のどの部分からそのような判断をしたのか。

(事務局)

単元の導入部分に児童の気持ちを高める言葉があるなど、単元のところどころに、児童一人一人の経験や意欲を喚起するしかけがある。児童が学習の流れを自らつかみ、「こんなこ

とをやってみよう」と思えるようにしたり、できたことを認めたりできるように、効果的に編集されている。

(委員)

「自己肯定感」という言葉をよく聞くが、実際の教科書にどのようなしかけがあって子供たちを導いているかを知ることができた。教科書の流れの中に、「自己肯定感」が育まれ、導いていくしかけがあることが分かる。

(委員)

「自己決定」しながら、自分を見つめることもできる。

(委員)

この教科書では、巻末等に安全面での配慮についての記述があるが、各教科書ではどのように扱われているか。

(事務局)

安全面の配慮についての記載は、巻末にあるところと、活動で必要なときに見られるように記載しているところがある。道具の使い方や、危険な生き物にさわらないこと等、児童の主体的な学びの助けとなるよう、工夫して扱われている。

(委員)

3(2)の内容の程度に5領域とあるが、5領域が何にあたるか教えてほしい。

(事務局)

5領域は、「探検」「遊び」「飼育」「栽培」「家族・成長」の5領域のことである。

(委員)

生活科は、自立し、生活を豊かにすることが大切な教科である。自己肯定感や自己決定力を大切にしながら、子供がやってみたいと感じるような動機付けや、協働や対話を通した学びの深まりなどに対し、各者が工夫していることが分かった。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「生活」は、原案どおりということで報告してよろしいか。

(全委員)

異議なし。

<英語>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

選定資料9・10ページに中学校への連携について書かれているが、これは教科書のどのようなところに表れているのか。

(事務局)

中学校に向けて、実際のコミュニケーションに必要な基本的な知識技能を身に付けること

も大切にしている。例えば、中学校で挑戦したいことを英語で表現させたり、中学校で扱う長い英文での学習につながっていくよう、まとまった読み物教材を6年生後半に準備したり、中学校での英語の学び方に関するコラムを準備したりするなど、各者は小中連携を意識した編集をしている。その部分を選定資料に特長として記述した。

(委員)

子供自身が自分の考えを深めていく工夫について教えてほしい。

(事務局)

主体的・対話的で深い学びを実現するために、プレゼントカードを送るなど児童の気持ちが自然と高まるような活動を取り入れたり、安心して英語学習を進められるよう、複数のActivityを設定して英語を繰り返し発話できるようにしたりするなど、教材に様々な工夫がある。単元の冒頭に、子供に表現したい思いを問いかけ、単元の中でその思いがかなっていくよう、単元の構成全般に工夫の見られるものもある。

(委員)

子供が、表現したいことを教科書の中で補いながら、また、教師や仲間との対話を通して子供が思考を深めていることがわかった。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「英語」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

【第6グループ】

<家庭科>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

選定資料の観点1について、「生活をよりよく変えていく力」「確かな力」と記述されているが、各教科書のどの部分について述べているのか。

(事務局)

各教科書には、単元のはじめに「学習の流れ」や「学習のめあて」が示されており、この部分に関する特長を示したものである。

(委員)

観点3(2)内容の程度について、両教科書とも「生活経験を想起しやすい」ことが述べられているが、生活経験を想起することが、内容の程度に対し、どのような効果があるのか。

(事務局)

子供の生活経験は、学びに対して具体的なイメージをもったり、見通しをもったりすることに対し有効である。生活経験を想起させることが、主体的・対話的で深い学びにつながっ

ていくという理由により、選定資料の内容の程度に記載した。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「家庭科」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

<図画工作科>

(事務局)

説明した点について御意見をいただきたい。

(委員)

観点1について、こちらの教科書では「育てたい三つの資質能力」、こちらの教科書には「資質能力の三つの柱」とある。同じことを言っているように感じるが、いかがか。

(事務局)

意味としては同じである。統一した方がよろしいか。

(委員)

前後の文章のつながりにも違和感はなく、それぞれの意味も分かりやすいと感じるので、変える必要はないと思う。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「図画工作科」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

<一般図書>

(事務局)

選定・不選定を各10数点ほど例に出して説明した。御意見をお願いしたい。

(委員)

一般図書は絵本ということだが、絵本として読むだけではなくて、授業の中で検定本と同様に、毎時間教科書として活用することを考えて選定しているのか。

(事務局)

そうである。特別な支援が必要な児童生徒は、繰り返しの学習や、長い期間をかけた学習をする。絵本は教科書として授業で使うことを想定して制作されていないため、指導の幅が広がる内容のものや、見やすさ、大きさ等を、指導段階を踏まえて総合的に判断して選定している。

(委員)

社会・生活の不選定候補である絵本は、確かに教科書として使用するには、内容が防災だけに偏っている。

(事務局)

この本は、内容的には授業で触れたい内容だが、毎時間は使用しない内容である。学校の図書館にあるとよい本であり、資料集としては活用が可能だと考える。

(委員)

選定されている絵本は、小学校の図書室でも人気のある本である。特に、道徳で選定されている絵本は低学年の児童がよく手に取る。構成やイラストなどが、子供を引き付けている。

(委員)

道徳の不選定候補である絵本は、教員の資料として使えそうなほど専門的である。

(委員)

説明を聞いて、選定されているものと選定されていないものの違いがよく分かった。

(事務局)

以上の議論を踏まえ、「一般図書」は、原案通りということで報告してよろしいか。

(全委員)

意義なし。

【全体会】

(会長)

それでは、全体会を開始します。部会ごとに検討していただきました結果の御報告をお願いします。

【第1グループ】〈国語・書写〉

(会長)

最初に第1グループ、国語・書写についての報告をお願いします。

(委員)

「国語」については、観点・着眼点に基づき、三者の教科書の特長が適切に記述されているかについて検討した。学習指導要領の趣旨、特に「主体的に学ぶ力」「学びにむかう力」を踏まえているか、「愛知の教育の基本理念」との関連はどうかなど、各者の特長をとらえた記述となっているかについて協議した。選定資料は、中立の立場で公平に記述されており、採択地区での調査研究の参考になる資料であると判断した。

(会長)

続いて書写について報告をお願いします。

(委員)

「書写」についても、観点・着眼点に基づき、三者の教科書の特徴や長所が適切に記述されているかについて検討した。学習指導要領の趣旨、特に基礎基本の定着や、学んだことを日常生活で生かすことなどについて、効果的に編集されているかについて協議した。選定資料は、中立の立場で公平に記述されており、採択地区での調査研究の参考になる資料である

と判断した。

(会長)

質問はありますか。

(会長)

ただ今の報告により、国語、及び書写の選定資料については、適切であると認めてよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

それでは、国語、及び書写の選定資料は承認とする。

【第2グループ】 <社会・地図>

(会長)

続いて第2グループ、社会と地図について報告をお願いします。

(委員)

「社会」は、前回の選定資料との変更点を踏まえながら、10観点に基づき、教科書の特徴や長所が適切に記述されているかについて検討し、特に3番の内容について協議を行った。社会の変化に対応したものが選ばれているかということ、内容が発展的に系統立てられているかという観点について、発行者三者の社会の変化に対応した内容が書かれていること、授業の系統だった進め方についての特徴や良さが選定資料にまとめられており、良いといった意見が出た。全体的に各教科書の特長をよくとらえ、公平に記述されており、採択地区の調査研究の参考になる資料だと考える。

「地図」についても、地図帳は小学校3年生から4年間使うといった観点から、発行者2者とも、3年生から使用することを踏まえて地図に親しみやすいよう、写真やイラストを添えるなど、親しみやすい工夫がされているところや、地図と歴史、地図と産業といった関連付けで二者ともまとめられている内容があった。観点的にも工夫がなされているというところで、その特徴や長所が選定資料にも記載されていた。全体として各教科書の特長を捉え、公平に記述されており、採択地区の調査研究の参考になる資料だと考える。

(会長)

質問はありますか。

(会長)

ただ今の報告により、社会、及び地図の選定資料については、適切であると認めてよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

それでは、社会、及び地図の選定資料は承認とする。

【第3グループ】<算数・理科>

(会長)

続いて第3グループ、算数と理科の報告をお願いします。

(委員)

「算数」では、観点・着眼点に基づき、教科書の特徴や長所が適切に記述されているかについて検討した。特に、実生活・実社会との関連付けについて協議をした。どの発行者も子供たちの学びが社会とのつながりを意識できるものであった。また、それがあいちの教育ビジョンにつながっていると考えられた。そして各者とも中立の立場で公平に記述されており、採択地区の調査研究の参考になる資料だと考える。

「理科」についても、同様に検討した。特に、内容の選択における見方・考え方について協議をした。どの発行者も、ポイントとなる見方・考え方が分かりやすく示されており、子供の思考を支えるものとなっていた。また、計画・予想・実験・考察・結論など、学びの進め方が教科書に丁寧に示されており、その長所が選定資料に記されていた。各者とも公平に記述されており、採択地区での調査研究の参考になる資料だと考える。

(会長)

質問はありますか。

(会長)

ただ今の報告により、算数、及び理科の選定資料については、適切であると認めてよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

それでは、算数、及び理科の選定資料は承認とする。

【第4グループ】<音楽・道徳・保健>

(会長)

続いて第4グループ、音楽・道徳・保健の報告をお願いします。

(委員)

まず「道徳」については、教科書の特徴や長所が適切に記述されているかについて検討した。内容的に、例えばいじめなど現代の問題に対する内容の取り上げ方とか、読み物資料・実在の人物をどのように扱っているかなどのバランスなども適切であり、アプローチの仕方には各者の特長はあるが、すべて公正に記述されており、選定資料として適切であると考えられる。

続いて「音楽」については、どの教科書についても、写真やイラストを効果的に使用し、そ

れぞれ工夫された表記になっていた。今回、印象的だったのは、二次元コードがつけられていて、コンテンツが見られる。コンテンツ自体は、選定の対象ということではないとのことであったが、興味のあるところではあった。教科書だけを見るのではなく、児童生徒が使っている一人一台端末などを有効活用していることを感じた。そういったことも含め、どの教科書についても、よく特長を捉え、公平に記述されており、選定資料として採択地区の調査研究の参考になる資料だと考える。

最後に「保健」については、生活とのつながりを意識したものとしてなっているということ強く感じた。身近な話題がとても多く、特に最近のコロナの内容についても、各者とも取り上げられていた。児童が自分事として考えやすいように編集が工夫されていた。選定資料のすべての内容も、公平に記述されており、選定資料として採択地区の調査研究の参考になる資料だと考える。

(会長)

質問はありますか。

(委員)

報告いただいた中にもあったが、コロナはだいぶ落ち着いてきたとはいえ、今もとても関心が高い。子供たちが正しい知識を身に付けていくことはとても大切なことだ。各者ともコロナを取り上げているとのことであったが、具体的にはどのような記載がされているのか。

(委員)

実際に新聞に載っていた記事を取り上げ、そこから感染症を防ぐための行動を考える単位となっていたり、基本的な感染症への対応ということで、家庭生活・学校生活を含めた、すべての日常生活の中で、どのように感染を防ぐのかを考えたりするなど、発行者ごとに工夫をしながら、全者とも5・6年生の中で扱っている。

(会長)

ありがとうございます。他に質問はありますか。

(会長)

ただ今の報告により、道徳、音楽、保健の選定資料については、適切であると認めてよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

それでは、道徳、音楽、保健の選定資料は承認とする。

【第5グループ】〈生活・英語〉

(会長)

続いて第5グループ、生活・英語の報告をお願いします。

(委員)

生活と英語についてまとめてお伝えをする。それぞれの教科の観点・着眼点に基づき、教科書の特徴や長所が適切にわかりやすく記述されているかどうかを検討した。

「生活」については、生活科という教科が、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することをねらいとしていることを踏まえて、特に自己肯定感や自己決定力が身につくような教科書となっているかということであったり、安全面の扱いがどうであるかについて特に協議をした。どの教科書も、わくわくしてやってみたいと感じる動機付けであったり、協働や対話を通して学びを深めていく工夫がされており、その特徴や長所が選定資料にも適切に記述されているという判断をした。

「英語」については、特に外国語活動や中学校との適切な連携がどうであるかについて、また、コミュニケーションを大切にする教科であるので、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動がどのような取り扱いになっているかについて、特に協議をした。どの教科書についても、考えさせる問いかけを工夫していること、対話を通して学びを深めていけるような構成になっていること、英語で伝えたいということや英語を使う必要感を大切にして動機付けをしている、そのような工夫があるということで、そのような特徴や長所が選定資料に適切に記述されていた。全体として、各教科書の特長を捉え、公平・公正に記述がされており、選定資料として採択地区の調査研究の参考になる資料だと考えます。

(会長)

質問はありますか。

(会長)

ただ今のご報告により、生活、及び英語の選定資料については、適切であると認めてよろしいでしょうか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

それでは、生活、及び英語の選定資料は承認とする。

【第6グループ】〈家庭・図画工作・一般図書〉

(会長)

最後に第6グループ、家庭・図画工作・一般図書についての報告をお願いします。

(委員)

第6グループでは、教科の観点・着眼点に基づき、教科書の特徴や長所が適切にわかりやすく記述されているかどうかを検討した。

まず、「家庭」については、児童の生活経験の想起について、「図画工作」については、育てたい三つの資質・能力などについて特に協議をし、選定資料は、すべて適切に記述されていると判断した。どの教科書も、ページの見やすさに工夫がされており、そういった特徴や長所が、選定資料にもしっかりと記述されていた。

続いて、特別支援学校などで使われる「一般図書」については、すべての関連科目の分野について障害児に適切に対応する内容の図書が選定されていると判断した。どの教科書もイラストや記載に工夫がされていたが、その特長が選定資料にもしっかりと記述されており、評価コメントに修正を求める意見も出なかった。

(会長)

質問はありますか。

(会長)

ただ今の報告により、家庭・図画工作・一般図書の選定資料については、適切であると認めてよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

それでは、家庭・図画工作・一般図書の選定資料は承認とする。

(会長)

以上で、すべての選定資料が承認されました。次に、その他について何かございますか。

(事務局)

会の後、義務教育課で更に表記上の点検をさせていただき、誤記等の修正があるようでしたら会長に報告の上、訂正して参りますので委員の皆様にご了承いただけますでしょうか。

(全委員)

異議なし

(会長)

では、本日の議事を終了いたします。

7 連絡事項

- ・教科書採択に係る今後の予定についての確認